



時間を作って読書を!

いよいよ冬休みがやってきます。十六日間の休みですが、年末は大そうじ、年始は初詣など、あつという間に日が過ぎていきます。ゆっくりできる時間があっても、ついついテレビやゲームでダラダラと過ごしがちです。時には好きな本を手にとって、読書の時間を作ってみませんか?きつと外は寒くても、心や体はポッカポカになりますよ!

1回10分、1日3回のんびりすると…

10×3=30分

30分ということは、朝の読書の時間の3倍もある…!

時間をうまく使って、たくさん本を読みましょう!



「クリスマス」がテーマの本を紹介します。



クリスマスといえばサンタクロース。外国では、サンタさんのために「ありがとう」の気持ちを込めて、クッキーとミルクを置いておくそうです。絵本の『**さむがいやのサンタ**』(作:レイモント・ブリッグス 発行:福音館書店)にも、クッキーとミルク、ジュースやお酒を用意してあるシーンがあります。ミルクが減っていたり、クッキーが食べられていたりしたら、サンタクロースが来た証拠になるそうです!

【賢者のおくりもの】

作:オー・ヘンリー 富山房ほか

お金がないのに、それぞれ大切なものを売ってまで作ったお金で買ったクリスマスプレゼント。結局無用の長物になってしまいますが、それを見る度に、お互いの優しい気持ちを思い出して、温かい気持ちになっているのかもしれませんね。

やはりクリスマスのお話は外国のものが多くですね。そして、なんだかほっとする話が多いのも特徴です。寒い日にほっとするお話を読むと、心もほっと温かくなりそうですね。



今回のおしらせ

●クリスマスの本紹介

●掃除をしよう!

【クリスマス・キャロル】

作:チャールズ・ディケンズ 岩波書店ほか

クリスマスイブの夜、意地悪でけちな老人のもとに幽霊があらわれ、老人の過去・現在・未来を見せられます。次の日、目覚めた老人は反省し、全く違う人間に生まれ変わろうと決意するのでした。19世紀のイギリスのクリスマスの様子がよく分かり、とても興味深く読める一冊です。

【おやすみなさいサンタクロース】

作:舟崎 克彦 絵:小澤 摩純 理論社

「このごろの子どもは、クリスマスのおくりものに、おもちゃやおかしじゃ喜んでくれない…。」悩みに悩んだサンタは思いつきます。「そうとも。おくりものは、どんな子どもたちにも喜ばれて、この世で一番大切なものでなくてはならん。」

はて、それは一体何なのでしょう?



きれいに になると 気持ちいい！ 掃除をしよう！



平成25年12月の「としょだより」でも掃除の話をしましたが、年末といえば「大掃除」ですね。みなさん、掃除は好きですか？苦手な人もいると思いますが、部屋はきれいな方が気持ちいいですよ！きちんと片づいたきれいな部屋で、あたたかい飲み物でもいただきながら、お気に入りの本を読む…。年末の忙しい時期だけど、少しの時間でもゆったりと過ごせるといいですね。そんな時間が過ごせ、その上、思わず掃除をしたくなるような本を紹介します。

【世界のゆうれい話】

編：白木 茂 偕成社

この中の『ゆうれいの出る家』が掃除をしたくなるお話です。若い学者が住んでいるお屋敷は、薄暗くてじめじめしていて、幽霊がたくさん住みついていました。学者は幽霊に仕事の邪魔をされるのが嫌で、ある女の人に幽霊退治を頼みます。その方法とは、なんと『掃除！』。窓を開けてたっぷりお日さまの光を入れ、部屋のすみずみまできれいにします。お屋敷にいられなくなった幽霊は、とうとう墓場へ逃げて行ってしまいます。そして、最後に意外な結末が！

外国文学には掃除のシーンがたくさんあります。「赤毛のアン」や「大草原の小さな家」シリーズをはじめ、「長くつ下のピッピ」や「丘の家のジェーン」では9歳と11歳の女の子が家中の家事をこなしています。昔は掃除機など便利なものは無かったので、全部人の手で掃除をしていました。時間をかけてピカピカになっていく様子を読むのは気持ちのいいものです。思わず自分の部屋を見渡して、掃除したくなるかも？



【人生がときめく片づけの魔法】

著：近藤 麻理恵 サンマーク出版

タイトルの中の『ときめく』とは『心がワクワクする』ことです。そして『片付ける』とは『いらないものを捨てる』のではなく、『心がワクワクする物を残す』というのが、この本に書いてある片付け方法です。

ちょっともったいないな、と思うものでも、心がワクワクしなかったら処分。そうしていけば、最後には心がワクワクするものだけが残ります。身の回りが、心がワクワクする、好きなものだらけなら毎日気持ちよく過ごせそうですね。

【ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと】

著：鎌田 洋 SBクリエイティブ

東京ディズニーランドの清掃スタッフのことを『カストーディアル』と呼びます。これは、英語で『保管・保護』といった意味です。ディズニーランドに行ったことのある人は思い出してみてください。ごみが落ちているのを見たことがありますか？この本では、カストーディアルたちが普段どうやって仕事をしているのかが分かります。『ポップコーンを落としても、拾って食べられるくらいきれいにすること』。なぜ、ここまでするのでしょうか？気になった人は読んでみましょう。

学校司書

阪田の

編集後記

苦手なことをするときは、まず簡単なことから始めてみましょう。たとえばお掃除でごみを拾うことから始めると、だんだんやる気が出てきて普段やらないところまで片づけ始めるかも…。こんなふうに、苦手なことでも簡単なことから始めれば、意外とできるものです。忍者の修行では、早く大きくなる草を植えて毎日飛び越していると、高く飛べるようになるそうです。みなさんも、勉強が苦手ならまず簡単な問題からやってみましょう。